

絶体ニ宥認スル不能ト之ヲ峻拒シタル為メ最早此上
交渉スルノ要ナシトテ憤然トシテ帰田シタルヲ以テ日
下ノ處高引續キ罷業者ヲ統^統スルモノト認メラル、又本
議因七支部中第一第五ノ支部ハ比較的態度軟
弱ナルニ付或ハ遠カラズ分裂ヲ見ルヤマ難斗而シテ本
爭議因ノミ大勢ニ逆行如斯強硬ナル態度ヲ持ハル
ハ因負一般ニ若年ナルト一面蒸油部ノ作業ハ相當
ノ技術ト熟練ヲ要スルモノナルヲ以テ今遠カニ之ヲ補
充セムトスルモ到底不可能ナルニ乘シ復強ニ要求ヲ
支持スルモノニシテ就中上野甚蔵、田中政太郎、野
田卯一等ノ如キ最硬派ハ目的ノ貫徹ヲ見ルメテ死ス
トモ復斂セスト豪語シ居レルカ會社側ハ之ニ對シ前

記通リ熟練ヲ補充スル困難ナル關係上主謀者ノ解
雇等高压手段ニ訴ハルヲ得ヌ目下袖手傍觀中ナリ

3. 大浦炭坑

其後相當硬論ヲ主張スルモノアリタルモ大勢ハ既ニ
復斂ニ傾キ遂ニ三月三十日午後二時直接會社
側ト會見折衝ノ結果愈々製作所ト同一条件
ヲ以テ内滿解決シ昨日ヨリ一月就業者見ルに至リ

4. 四ツ山炭坑

三月二十九日高十四名ノ罷業者残存シ居リタル
又翌三十日ヨリ無条件ニ全部ノ出勤ヲ見ル

6/30 水